

1月27日保護者説明会 フォーム受付質問等と回答について

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブはどうなる? ・バスに補助員が乗って欲しい ・朝の学童もやって欲しい(朝早く登校できたら助かる) ・総称の～学園という呼び方の印象が良くないと思う。 ・送迎バスを距離にこだわらず、子どもにとって遠く感じるようであればバスに乗せて欲しい。 ・近隣学校にない「ここにしかない施設」が欲しい。それがあること、他の地域の方を呼ぶことができる ・広い校庭を活かした陸上施設 ・良い音が聴ける音響施設 ・村人も楽しめる映画鑑賞施設 ・児童クラブをつくって欲しい ・玄関から校庭に出られるようにして欲しい(校庭履きの靴を減らしたい) ・建設検討委員会で意見したことは反映されるのか。 	
<p>1月22日受付 北小保護者</p> <p>9年度は南小が廃校になります。(北小は閉校)同時に創立50周年の年でもあります。学校はもちろん、保護者、卒業生、地域の方々が何かしら校舎にありがとうを伝えられる機会を設けて欲しいです。思いを込め過ごせる年になる様、学校PTAと連絡を取り合い準備をしていく部署(〇〇会)を発足させる等して欲しいです。</p>	<p>・今後発足する予定の「(仮称)あたらしい学校づくりプロジェクト」を中心に、いただいたご意見や要望をふまえて検討していきます。その際には、多くの皆さんの参画をお願いします。また、建設検討委員会でのご意見は、大切に今後の検討においても参考にしていきます。</p>
<p>1月25日受付 北小保護者</p> <p>子供が部活をやりたいとなった時に川上村や佐久の方の学校と合同でやることになった場合、仕事で送り迎えが難しい場合は子供に諦めてもらわなければならないことも出てくると思います。平日の学校終わりに部活動の場所まで送っていただけるバスが出たりしたらありがたいなと思います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・北小は空き教室が無いけど、なかよしやおぞらの教室はどうなるの? ・30人クラスは教室が窮屈になりそう 	<p>・教育委員会では、教育の空間づくりを専門とされている大学の先生にご相談しながら、令和10年までの2年間の準備期間で現在の北小の施設を工夫すること</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
	<p>で、30人が窮屈になってしまう点や、なかよし、あおぞら学級をどこに設置するのか対応を考えていきたいと思えます。そのうえで、北小の教室に少し造作の変更工事などを入れる必要があるのか、不足する教室に代わる仮校舎を置かなくてはならないのか、あるいは模様替えや一部引っ越して対応できるのかなど検討していきます。</p>
<p>1月26日受付 中学校保護者</p> <p>補助金の関係もあるとは思いますが、校舎の移行期に在籍する小学校の子どもたちの負担は、学びの場が複数回変わり考えただけでもとても負担大きいと思えます。また、学びの場が変わるといことは、先生方にとっても通常の仕事をしながら対応していくことは、大変だと思えます。在籍中の子ども達の負担を少なくする移行の仕方を検討した方がよいと思えます。また、建設や教育に関する検討だけでなく、学校が変わることに伴う子ども達や先生方のメンタルなどのソフト面をサポートすることはとても重要だと思うので、検討事項に加えていく必要があると思えます。</p> <p>南小の場所に新校ができることに、正直、不安を感じます。南牧村は、佐久地域の一つであるため、学校職員も佐久方面から通勤する人がほとんどです。これから(今も少しずつ感じていますが)どこの地域でも人材不足といわれる中で、通勤時間が長く要する場所に学校職員が十分に集まるのか、欠員が生じないのかとても心配です。どんなに立派な学校が建設されても教育を作っていくのは「人」なので、人材確保を大切に考えてほしいと思っています。</p>	<p>・子ども達や先生方の負担についてそのとおりだと思えます。移行の方法や、心理面のサポート体制については、今後検討する事項に加え、検討していきます。</p> <p>・建設検討委員会でも人材確保について検討されましたが、この点は意見が分かれたところです。教育委員会といたしましては、人材確保の問題はしっかりと認識しており、しっかりと対応策をとる必要があります。例えば、教職員住宅整備により、おみえいただく先生に寒冷地でも生活し易い住環境を提供したり、先生方の業務量について教育委員会でしっかり把握しながら、授業への専念できるような学校運営に努めることが重要だと考えております。</p>
<p>・平沢からのバスは実際どのくらい時間がかかるのかシュミレーションして欲しい。</p>	<p>・第4回建設県検討委員会資料より、平沢から中学敷地まで17km26分という報告をしています。北小までの通学は実際には計測していませんので、今後バス通学について検討する際に実施します。</p> <p>※実際の説明会で、この点について直接意見交換をしています。会議録をご覧ください。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>・もうこんなに話が進んでいるのかと驚いた。</p>	<p>・これまで建設検討委員会の様子や、意見書全戸配布、教育委員の視察報告、地区懇談会など広報に努めてきました。これまで以上に皆さんに情報をお知らせする機会を増やしていきます。</p>
<p>・どのようになっても柔軟に対応するつもり</p>	<p>・心強い言葉をいただきました。ありがとうございます。</p>
<p>1月26日受付その他住民</p> <p>2026年1月27日保護者懇談会質問</p> <p>①学校の在り方については、教育の現場での問題把握の上に検討されるべきだと考えます。これまで、教職員、児童の皆さんからは、今回の問題(統合し南小に建設、義務教育学校)について、どのような声や意見があるのか、また児童にどのような説明をされているのか。どんな些細なことでも結構ですので、お聞かせください。</p> <p>②令和5年教育主事の「今デメリットの方が多い、義務教育学校で解決」について、12月議会で、「今のデメリットとは？」の質問に「その当時デメリットとして考えていたことといたしましては、少人数学級では教員が生徒に対して個別に目を配ることができ一方生徒が自分で考える力を育む機会が減少することがあります。大人が手を出しすぎたり子供は考えるよりも先に指示してしまったりすることがあり、子供が考える機会を少なくしているということでございます。」と教育長が答弁しています。これは、あくまでも一般論をのべたものであり、本村では、このようなデメリットの実態はあるのでしょうか。その他のデメリットはどのように把握されていますか。ここでも指摘しているように「少人数学級では教員が生徒に対して個別に目を配ることができ」という、メリットを生かした教育こそ大事だと考えます。このようなデメリットと認識されている問題の解消は、小中一貫教育・義務教育学校でないと解消できないのでしょうか。</p>	<p>①教育現場での問題把握のうえで検討されるべきという点について、現在の学校に問題があるから統合を検討しているわけではございません。これから必要な教育を考え、その環境を子ども達のために整えるために統合を検討しています。子どもたちの声を聞くことについては後述します。先生方の声については、3校教職員研修会の機会をとらえ、教育委員会の現在の考えについて説明し、望ましい教育環境についてのワークショップを行いました</p> <p>②上記の①と同様、問題があるから統合や小中一貫教育、義務教育学校を検討しているわけではございません。目指す教育、これから必要な教育を考え、その環境を子ども達のために整えるために統合、小中一貫教育を検討しています。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>③子どもの意見については、これまでも「様々な手法で検討する」という事になってはいますが、どのような努力をされてきたのか。今後どのように行うのか。「統合、建設地、義務教育学校という」方針を決めてから、子どもの意見を聞くのは、順番が違うのではないのでしょうか。</p> <p>④教育環境については、教育委員会が主体的に検討しすすめるべきと考えます。12月の総合教育会議で教育大綱が制定されました。○「教育委員会の議事録以外でも、熱心な討議がされている」という、議会答弁がありました。委員会以外での討議とは、どのような場なのか、内容はどのように村民は知ることができるのでしょうか。</p> <p>○教育大綱は、いつの教育委員会で決定されたのか。 ○学校建設地、施設分離型小中一貫校、施設一体型義務教育学校の決定については、いつの教育委員会で決定し、どのような手続きで行われるのか。以上</p>	<p>③ 子ども達の意見聴取について 学校統合については大人の責任で決定すべき問題であると考えます。広い視野にたって考えていくべきですが、これまでの建設検討委員会や学校統合の長い議論の中で地域のエゴがぶつかり合うような場面もありました。そういった部分に子ども達を巻き込むべきではありません。前向きな議論のフェーズに立った時、ようやく子ども達、また先生方をいれて意見や話をする事ができると考えます。</p> <p>④教育委員会内での討議につきましては、定例会は議事録で皆様にお伝えすることが可能です。それ以外ですと、定例会以外の懇談会、打ち合わせ会、視察先での懇談会等様々な場面で討議しています。そのすべては議事録に残っていませんが、委員さんご自身の言葉で自分の考えを伝えていただく機会は、小さな村ですのであると思います。また、決定の具体的な会議は、教育大綱の決定は令和6年5月委員懇談会、基本方針は令和7年12月教育委員会臨時会で行っております。</p>
<p>1月27日受付 その他住民</p> <p>1. なぜ、9年間一貫した教育目標を持たなければいけないのか。また、大きな抽象的な目標なら村の教育として持てば小中別でもできる。具体例として、土佐山学舎の英語教育が絶賛されているが、公立の学校としてどうなのか。英語が好きで、英語を勉強したい子どもには良くても、植物とか、宇宙とか各自の勉強したいものは違う。英語に注力することで、ある意味、自分の勉強したいものが、時間として犠牲になる子どももいるのではないかと。また、バス待ち時間利用の例は、英語でなく本を読みたいとか、友達と話したいとか、自由や自発性を保障すべき時間ではないかと。そもそも、母語が構築される前の段階、低学年での過度な英語教育に問題はないのか。2級検定など英語(英会話)は道具であり(語学としての、文化としての英語学習は別)、子どもの人格を形成するという教育の目標、子どもの発達を保障する目標とはレベルが違う。村の教育としての一貫した目標ならば、宇宙とか、人類の歴史とか、平和教育とか、基本的な、人として生きる上での知識、学びであるべきで、全員同じでなくても良いし、小中一貫でも別でもできる事だと思ふ。</p>	<p>1、9年間の教育目標をなぜもつのか、またそれは小中別でもできるとの指摘については、義務教育が9年間で行う目的や、新しい学びについて保護者説明会でお話しました。9年間の連続した教育目標をもつ方が、これから求められる、児童・生徒それぞれに合った個別最適な学びと協働的で深い学びをさらに充実させることができると考えているからです。それはご指摘のとおり、小中別でも可能ですが、当村の場合は小中一貫教育としたほうがより効果が高いと考えています。それは建設検討委員会の意見書でも多くの委員が一致した意見でもあります。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>2. 義務教育学校、小中一貫校の教員の方に聞いたところ、教師の負担はむしろ増える。特に移行期は非常に大変であるとのこと。統合しても南牧は少人数教育だが、教師一人当たりの受け持つ児童生徒数は変化する。先生の仕事、先生と児童生徒の関係性はどうなるのか。</p> <p>3. 義務教育学校・小中一貫校といっても実態はさまざまである。まだ実験段階といっても良い。いろいろな調査研究がされている。じっくり検討した方が良い。子どもたちを実験台にしてはならない。</p> <p>1. 南牧の学校で、コミュニティスクールはどのような取り組みが行われているのか。教育委員会のホームページなどで調べられないが。信州型CSというが、学校運営委員会と学校運営協議会が両方設置されているのか。</p> <p>2. 地域で取り組むとか、住民協力を求めるが、検討の段階で幅広い意見を聞こうとしているように見えない。学校建設検討委員会も実質的な住民合意形成とは思えない。</p> <p>3. コミュニティスクールの件だけにかかわらず、村の中で公的、半公的、地域的な組織とか役員とか、役割とか、複雑に多いのではないか。安易にかたちをつくっても、実態が伴わず、負担が増えているということはないのか。</p> <p>1. 今の小学生と中学生という区分で言えば、発達段階が異なり、同じ学校施設ですと一緒にいることが適切なのか疑問。授業時間のずれ(チャイムの問題)、保健室など施設問題、中学生の試験期間の問題などきりがいい個々の問題もある。</p>	<p>2. 教師の負担について、義務教育学校、小中一貫教育の教員に聞いていただいたとのことですが、業務量管理について教育委員会としてしっかり取り組みべきことであり、現在の学校運営であっても同様です。今後の課題であると認識しています。そして、移行期の負担軽減については、統合に伴う加配教員の配置を要望したり、授業時間の調整するなど具体的な作業時間を業務時間内で確保できるよう努めます。統合しても南牧村の教育は少人数教育であることはご指摘のとおりです。現状より教職員1人当たりの受け持つ児童生徒数は総じて増えることとなりますが、その点について協働的な学びのさらなる広がりという期待もあります。</p> <p>3. 子ども達を実験台にしてはならないという表現について、大変苦しく悲しい気持ちを持っています。南牧村教育委員会は、子ども達のために最善を尽くす方法を常に検討しています。</p> <p>1. 当村は、各学校毎に学校運営委員会を設置しています。</p> <p>2. いただいたすべてのご意見に沿うようにはできない点もあるかと思いますが、ご理解ご協力をお願いいたします。</p> <p>3. 安易にかたちをつくっても実態が伴わず、負担が増えているということにならないようにとのご心配について、ご指摘のとおりです。3校を合わせたコミュニティスクール構築は、無理なくできる範囲でご協力していただければと思います。</p> <p>1. 具体的なご心配を抱えられていることは理解できません。個々の問題については、「(仮称)あたらしい学校づくりプロジェクト」で検討していきます。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>2. 小学校先行統合というが、通学時間の長さは、特に低学年の子どもにとって影響が大きいと思われる。トイレ付バスで解決するのか。また、トイレ付バスまで導入しなければいけないような無理なことを、なぜ子どもに強いるのか。</p> <p>1. 少人数でもがんばって統合しない学校・自治体も調査してはどうか。</p> <p>2. 教職員の方との、話し合いの機会をつくらしてほしい。実態、率直な意見を聞きたい。</p> <p>1. 統合すると、この村は、「学校や教育を大切にしている」というイメージは下がると思う。いろいろな工夫を最大限したうえで、どうしても統合という結果になったということではないから。待ったなしとか、今どうしても、というより、国策によって補助金を受けたいように見えるから。</p> <p>2. 人数が少ないと多様性が育たないというが、どういう根拠があるのか。そんなに単純なものではない。人数多いと、一人、または少数の強い意見に引っ張られることもある。また、自分と同質のものとグループ化し、他との交流が少なくなったりする。</p>	<p>2. 通学の問題については、保護者説明会でも実際に平沢地区の保護者の皆様からご指摘をいただきました。トイレ付バスは、ひとつのアイデアとして紹介しました。それですべてが解決するとも思っていません。直行便や、小さな車両での通学など、今後工夫して子ども達、特に低学年の子ども達に負担が少ない方法を検討していきます。</p> <p>1. ご指摘の自治体、学校は全国にはあると思います。しかしながら、統合そのものを悪いものだという前提に立たない視点での検討もお願いします。</p> <p>2. 建設検討委員会でも申し上げていますが、地域の皆様や、保護者の皆様とお話ししている内容によっては、教職員に大変な負担となります。教育委員会といたしましては、前述したように、前向きな議論のフェーズに立った際、教職員との意見交換等の場を設けたいと考えています。</p> <p>1. 統合により当村のイメージが下がる、あるいは国策によって補助金を受けたいとの指摘については、村の職員、教育委員会、あるいは我々公務員全体が地域の方や、国民を考えずに仕事をしているようにとらえられていて、大変悲しいことです。そして、何よりも子ども達のことを第一に考え、統合についても検討しています。さらに、どんな事業を行ううえでも、村の財政負担が軽くなるよう補助金を検討することは、村民全体を考えているほかになりません。その点を、ぜひご理解いただきたいと思えます。</p> <p>2. 人数が少ないと多様性が育たないとの指摘については、そのようなことは申し上げていません。統合により、よりよい協働的な学びが広がると申し上げます。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>1月28日受付 中学校・北小保護者</p> <p>・保護者と学校の先生との説明会を行ってほしい 各学校で</p> <p>・場所はどちらにしても距離の問題は少なからずあると思います。南小に建てた場合、救急搬送に対する時間、心肺停止になった場合はドクターヘリかもしれませんが急病やケガした場合、保護者が迎えに行くと佐久地域や小海の病院へ行くには時間がかかりすぎます。保育園卒園して1年生になったばかりの子などは特にトイレの心配。バス酔いもあったり、中には恥ずかしくて意思表示ができない子もいます。平沢から北小へ2年間通うにしても負担が大きく子供がかわいそうです。その辺の対処を十分に考えて頂かないと我が家は小海へ行くか引っ越しも少なからず考えないといけないかなと思っています。</p> <p>あと、部活も地域移行になるようですが現時点でも小海や佐久穂と合同チームで行っている部活も多いです。野辺山へ保護者が迎えに行き他校へ連れて行くとすれば負担もかなり大きいですし、せっかく子供がやりたい部活があっても我慢してもらわないといけなくなるかもしれません。そのあたりの考慮も十分に考えて頂けないかなど心配だらけです。教職員の方たちも佐久地域から通勤してらっしゃる先生が多くて職員住宅を造ると言っても家が既にある人、ご家庭がある先生など大変なのではないでしょうか。異動してしまった先生と前話したこともあります。南牧中学校までが限界と言っていました。定年間近な先生も負担が大きくなるのではないかと思います。</p>	<p>・保護者会を各校で行ってほしいという点については、今回あえて同一会場で開催しました。平沢地区、海ノ口・市場地区両方のご意見を同じ場所で聞いていただいたことに、非常に価値があると考えています。それは、建設検討委員会でもそうであったように、地域それぞれの違う意見を聞いていただくことに意義があるからです。また、今回、ありとあらゆる広報媒体を使って保護者説明会を広報しています。再度の3校説明会開催は現在、考えていません。なお、先生方へは、3校教職員研修会で、ご説明しています。</p> <p>・次に具体的な心配ごとをいくつかいただきました。南小での救急搬送について、バス通学についての負担への懸念、部活動地域移行と送迎について、教職員の通勤についてです。そして避難場所と併せて南牧中学校周辺へ新校ができることを期待していたというご意見です。上記の点については、建設検討委員会で検討されました。ご意見をいただいた、中学校をそのまま使うという点を選択できなかったことについては、お寄せいただいた心配ごとを、論点として整理し、建設検討委員会でも検討しました。しかしながら、多くの方が納得できる建設地として選定することまで至りませんでした。</p> <p>教育委員会としては、多くの方が納得し、意見が一致できるような場所を建設検討委員会で決定したいと願いました。しかし、様々な視点から討議することで、委員それぞれの考えや、価値観が錯綜し、前提となる当村の教育ビジョン【地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」】このビジョンにふさわしい拠点となるような場所は、また、子ども達のためののぞましい教育環境は建設候補地のどちらであるのか、ということを見失わずに選定することが非常に難しくなった為です。建設場所を選定するにあたり、検討したどの要素も重要であると考えているからこそ、判断が難しく、村全体の将来像と併せ検討する必要があると考えました。さらに、子ども達一人ひとりの大切な1日1日を無駄にできないことから、一刻も早く目指す教育を実施できるようにしていきたいと願っているからです。そして、教育委員会では、南小敷地を軸に、あたらしい学校を検討することを基本として決定しました。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>他に、台風により避難したこともあります。避難場所もかなり古く危険な場所なので南牧中学校の所にできると期待していたのでとても残念です。</p>	<p>また、防災拠点、避難場所については、村全体の問題としての問題は考えなければなりません。役場全体でこの問題は共有し、取り組んでいきたいと考えています。いただいたご心配ごとは、今後の検討事項の大切な肝となる部分です。ぜひ様々なアイデア、知恵をいただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>1月29日受付 中学校保護者</p> <p>子供の人数が減る一方ならば新しい校舎を作るではなくリフォームなどをすれば十分だと思っております。小学校は南小へ統合(平沢からの距離や支援学級のことなども考えて)中学校は現状のままでいい気がします。補助金のことしか伝わってきていない気がします。そうすると準備期間や多額の金額がかからないと思っております。佐久穂や白田地区も新しい校舎できるまでは環境を変えず今までの小学校へ通っていたと思っております。どうして準備期間が必要なのでしょうか。</p>	<p>子ども達の人数が減る一方であるならば、リフォームで十分ではないかというご指摘ですが、費用面で申し上げますと、リフォームも新築と大差ない費用がかかります。建設検討委員会で検討されましたが、中学校敷地は、急傾斜地の危険区域であることから、現在の校舎をそのまま活かすことは難しく、中学の裏山を削り、造成するなど莫大な費用と時間がかかります。その点が、非常に大きなネックとなって議論されました。ご意見をいただいた、中学校をそのまま使うという選択がとられなかったのは上記の理由が大きいです。</p> <p>そして、当村が目指す教育は、施設を一体とした小中一貫教育の方がより教育効果が高いと教育委員会では考えています。そのため、なるべくお金がかからない、安心安全な校舎をどこに建設するか検討し、南小学校の敷地へ新校舎を建設する考えに至りました。準備期間は、子ども達の小中一貫教育のことだけでなく、工事期間中の安全確保の点から必要と考えます。また、小学校統合をなるべくはやく実施したいという願いも多くあります。つまり、小学校統合と小中一貫教育のスケジュールは、子ども達の大切な1日1日の中で、なるべく早くめざす教育を実施するため検討したスケジュールです。ご理解、ご協力をお願いいたします。</p>
<p>1月29日受付 野辺山保育園保護者</p> <p>先日の説明会で、小小連携、小中連携を進めていくと話されていましたが、先生方の異動がある中で、この2年間で準備したことが次に異動して来た先生方に、同じように引き継がれていくのか心配です。統合について中心に進める方が必要なのでは無いかと思っております。30人の学級や人数が増えた学級ができたときに、同じようにきめ細やかな指導ができるのか心配に思っております。人数が多くなる分、1人を見られる時間は絶対に減ると思っております。そうならない工夫をお願いします。合併が進むことが決まっているとお聞きしたので、少人数のメリットがなくなる工夫を必ずしていただきたいです。</p>	<p>2年間で準備したことが引き継がれていかないのではないかと、少人数のメリットがなくなる工夫をして欲しいという要望をいただきました。教職員の異動があるなかで、ご指摘のご心配はもっともです。当村の教育課程をしっかりと構築し、それを実践できるような人員配置について県教育委員会に要望しながら実施できるよう努めます。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>2月2日受付 野辺山保育園保護者</p> <p>①義務教育学校について・義務教育学校について、「校長先生が一人、教員組織が一つ」といった説明はあるものの、それ以外の説明がかなり不足しているのでは?と思います。</p> <p>・義務教育学校にすることで、「教員組織が一つになるから教員の配置などやりやすくなる」といったお話もありましたが、果たして本当にそうでしょうか?ただでさえ、教員を呼び込むことが大変と言っている村に、小学校と中学校両方の免許を取得している方がどれだけ来てくれるのか?という問題。また、仮に来てくれたとして、小学校と中学校では根本的な教え方が違うのではないかと思うのですが、免許を両方持っていたとして、どこまで小中両方に合わせた教育ができるのでしょうか?</p> <p>・学びとは自発的に行うものだと思うので、大人は学ぶ人は日々学んでいるし、学ぶことをやめてしまっている方もいると思います。そのため、「大人も学ぶ 共学び・共育ち」の村という意味がそもそもよくわかりませんが、それを目指すとしてどうして義務教育学校にして新しい校舎を建てる必要があるのでしょうか?仮に、地域の大人も関わり、学んでいくのであれば、市場坂という地理的な問題があるこの村にとって、南と北の両方に学校を残した方が実現されるのではないのでしょうか?</p>	<p>①・義務教育学校についての説明が不足しているというご指摘について、限られた時間の中での説明で大変失礼いたしました。義務教育学校の説明について、さらに広報を実施します。</p> <p>・小学校と、中学校の免許状が両方ない問題については、保護者説明会でもお話しましたが現状両方の免許状があることを原則としつつも、どちらかの免許状があればそれぞれの小学校課程部分、中学校課程部分で指導することが可能です。それぞれの免許状しかない、あるいは両方もつ先生方の役割として、例えて申し上げれば、中学校の理科専科の先生が、小学校課程部分での理科専科指導にあたるということが可能です。そして、総合的な学習で理科専科の知識で理科指導に関わる指導を行うことも可能です。逆に小学校課程をみていた先生は、子どもの小学校の様子に熟知していることから、中学校課程において、1人1人の習熟度別指導に当たることも可能です。このような、小学校と中学校それぞれの子ども達の姿を直接先生方が見ることにより、より子ども達にあった個別最適な学習に近づけることが大きな利点であると考えています。</p> <p>・教育大綱にある目指す村や、教育の姿として意味が分からないということは、当村の社会教育の充実と学校教育の融合についてご理解を深めていただく機会をさらに増やす必要があると感じました。そして、北小学校区、南小学校区それぞれの地域の皆様が大切に育んできた50年の歴史を簡単に考えてはおりません。今後の村の姿を考えていくうえで、北小学校と南小学校の今後について統合を選択せず、このまま維持することを検討した場合、今後の子ども達の出生予測のなかでは、ゆるやかにどちらかの学校が廃校となる時期も予測されます。現時点で令和8年度における村内全体の出生予定数はいまのところ0人であり、どちらの地域にも子どもがいないという時代が着々と近づいています。このまま、緩やかに廃校となることを待つのではなく、前向きに考えて南牧村が目指す教育に向けた教育課程を再編成し、古くなってしまった校舎をリニューアルしていくよりも、求められている学びを実現するための新しい学校に、子ども達が集まる可能性を学校教育からつくっていければならないと考えています。そして、地域全体が、それに向かって一致団結できればと願っています。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>②・コミュニティスクール構想について 地域の方々と児童生徒が関わるということはいいことだと思います。南小学校の南小店なども、農業が盛んな地域の特性を生かし、地域の方々と関わりながら学べる場だと思います。</p> <p>・ただ、これに義務教育学校が必要かと言われると果たしてそうなのか?と疑問を感じます。既存の学校を残した方が、地域の方々と関わりはしやすいのではないかと思います。むしろ統合して学校が一つになった場合、学校が無くなった地域の方々とつながりはかなり薄くなってしまわないかと思えます。</p> <p>・基本方針(案)に「保護者や地域住民の声を丁寧に聴き、共に新しい学校づくりを行うという姿勢が大切」とありますが、ここまでの経過、そういった誠実な姿勢はあまり感じられません。学校建設検討委員会で、「住民や教員に対してアンケートをとってほしい」という要望がありましたが、「考えていない」との返答、村民の意見発表はなかったことのようにスルーされ、出来レースのように進んでいく学校づくり。建設検討委員会で寝てる方や、ほとんど参加していない方も多かったと思います。その中で決まった(そもそも決まったのかも疑問)ことを、委員会の決定事項として掲げ、熱心にこの村のことを考え発表された意見は無視されているのを見ると、これから先も意見を丁寧に聞いてもらえることはないんだろうなと感じてしまいます。</p> <p>③設置場所と開校予定・今後のスケジュールについて</p> <p>・9月定例会の召集あいさつ村長で村長が「新しい学校は義務教育学校で建設は南小敷地に」といった内容の話がありましたが、それはいつ・どの教員委員会で決まったことなのでしょう?</p> <p>・北小区の方から意見や反対は出なかったのでしょうか?仮に意見があったとしても、圧力が強く、学校に我が子を通わせている立場の保護者からすると、意見を言いにくいと感じる方もいたのではないのでしょうか?実際、建設検討委員だった方からも聞いた話では、ワークショップの最中もコーディネーター的な立場の方が意見を操作・誘導している感じがあり、発言をしても取り合ってもらえなかったりした場面があるといえます。</p>	<p>② 前述した理由から、学校再編と統合を検討しております。</p> <p>・南牧村教育委員会の意見聴取の姿勢について、疑問を持たれていますが、教育委員会に聞く姿勢や、取り入れる姿勢がないと判断されてしまうことは、教育委員会としても大いに反省すべきだと考えます。しかし、“出来レース”という表現が使われていますが、これはご自分の価値観や意見にそぐわない方向に、この学校統合が向かっているから使われているのでしょうか?私たちの意見や考えをもう少し、ご自身のお考えにいれる余地を作っていただけではないでしょうか?違う意見があるのはもちろん承知しています。私たちは、なるべく多くの皆様に賛成いただけるような答えをみつけないかと考えています。私たち教育委員会は、子ども達にとってより良い教育環境を考えていることを、すべて否定することから始めないでいただきたいです。意見を聞いてもらえないということではなく、お互いに前向きな討論をしていく努力を常に私たちもしていきたいと考えています。</p> <p>③教育委員会でいつどのように決まったのかという点については、基本方針の決定は、令和7年12月教育委員会臨時会です。9月村議会定例会招集挨拶は、建設検討員会での意見書を踏まえ、村長がご自身の考えを表明したものです。</p> <p>次に、北小区の方からの意見や反対のお声はこのGoogleフォームでいただいたとおりです。他に、海ノ口、海尻地区の行政懇談会で、学校統合について発言された保護者がいました。新校を南小区へ建設することに反対の声もありました。一方で、統合についてスケジュール通り進めてほしいと発言された方もいます。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>・今、保育園児の子がいる親として、スケジュールどおりに行けば、南小→北小→統合した小学校と3校に通う可能性もあり、子どものケアがとても心配です。仮にスケジュール通りに進んでしまう場合、学校がコロコロと変わることへ不安を感じる子どもも多く出るのではないかと思います。そういった状況への対応など十分に予測し考えているのでしょうか?もし考えているようであれば具体的にご提示お願いします。</p> <p>・仮に予定どおりに進み学校が無くなった地域(北小・中学校の地域)はどんどん廃れていってしまうのではないかと感じてしまいます。残された建物の活用など具体的に考えていることがあればお聞かせください。しっかりしたビジョンがなければ間違いなく村の分断を招くと思います。</p> <p>④今後検討していくことについて</p> <p>・新しい学校づくりプロジェクトに関しては、そのメンバーは希望者を募っていただくことを強く要望します。建設検討委員会には熱意のない方もたくさん選ばれており、次のプロジェクトではぜひ熱意のある方を募ってほしいです。また建設検討委員には教育委員の方が入っていましたが、それはどうなのか?自由に議論をする場として、どちらかに傾けるような意見を持つ方々が委員メンバーとして入るのはいかなものかと思いました。</p>	<p>次に学校移行における子ども達へのケアについて、ご心配されていることはごもっともなことです。これについては、スクール・カウンセラーや、村費教職員などでケアを必要とする子ども達に寄り添い、子ども達が抱える負担感を取り除いてあげることが大切だと考えています。子ども達それぞれに個性や特性があり、負担感の大きさも違います。一律なケア対策を講じるのではなく、子ども達のそれぞれに寄り添ってあげることが基本になると思います。具体的な対応策については、今後の検討していきます。</p> <p>次に廃校舎の利活用は、教育委員会所管の事項ではありません。しかしながら、今後の村全体を考えた時にご指摘のとおり大変重要です。村役場や、村全体としてしっかりと検討していく必要があると認識しています。</p> <p>④あたらしい学校づくりプロジェクトのメンバーについては、前回の建設検討委員会で教育委員が自由に討論、議論する場において恣意的に意見を傾げる様なご指摘をされていますが、そのような事実はございません。教育委員各人の意見を持って、参加していただいています。今後も教育委員には、自身の意見を持って、参加いただく予定です。そのほかのメンバー選定については、現在検討中であり、今後学校を支えていただく皆様に参加いただきたいと考えております。具体的には、子ども達、先生方、保護者、コミュニティスクール、児童クラブ、子ども支援センター、村役場職員、教育委員会などの代表者に参加していただいたり、あるいはワークショップ形式で自由に多くの方に参加いただくなど、さまざまな形で多くの方に参加いただければと考えています。</p>

質問等(フォーム以外にお寄せいただいた内容もふくめております。)	回答
<p>・最初に南小で行われた懇談会で、教師が黒板に書いて一方的に授業するやり方はこれからの時代に合わず、タブレットなどを用いたICT教育が必要といったニュアンスの話がありました。ICT教育に対応するために、新しい校舎を建てなくてはならないという話も教育長が発言していました。今、スウェーデンやフィンランドなど海外の教育先進国では教育現場の脱デジタル化の動きが出ています。早くからICT教育に取り組み、それに伴う弊害を目の当たりにしてきたことで、タブレットなどのモバイルデバイスを使用しない方向へと戻す動きも出ています。そういったことを踏まえると、教育長の発言にあったように、新しい校舎建築理由の一つとして「ICT教育に対応するため」というのは世界の流れに逆行しているように感じます。ICT教育に重点を置かなければ、一部モバイルデバイスを用いる授業があったとしても、今までの校舎でも十分授業は可能ではないかと思えます。</p> <p>・今回の保護者説明会に関してもですが、こういった大事な予定は少なくとも1ヶ月以上前に提示していただきたいです。仕事の関係や外せない予定など、2週間前に提示されても予定を合わせるのが難しいです。できればオンラインではなく直接参加したかった思いが強いです。昨年12/3に開催予定であった海尻地区行政懇談会が急遽12/5に日程変更された件で、懇談会のあいさつで村長が「役場の都合で」と述べたようですが、実際は村長の個人的な私用で変更されたと聞きます。実際に元の日程で参加するよう都合をつけていて参加できなかった方もいるようで、村長の私用で急に予定を変更されは困ります。さいごに・大人の都合で強引に押し進めるのではなく、子どもたちのことを第一に考え、子どもたちの声に耳を傾け、学校の在り方について考えてほしいと願います。今後どのような方向に進むにしても、民意を無下にせず、村民の合意が不可欠だと思います。</p>	<p>・次にICT教育と新しい校舎が必要という部分については、ICT教育部分に特化した形で校舎が必要ということではありません。いままでの校舎でもICT教育に対応できるよう設備は整えています。ICT環境だけでなく、新しい施設をさらに充実させ、多くの学びを提供するための新しい環境が必要であると考えています。</p> <p>・保護者説明会の予定については、今後もこのような機会をもつことがあると思います。ご要望のとおり1カ月以上前から段取りが組めるかお約束はできませんが、できるかぎり対応したいと考えます。最後に、改めて教育委員会は村の子ども達のために最善であることを常に模索していきます。そして、子ども達の意見は、大人の都合で利用されることのない段階、前向きな議論のフェーズにたった際にしっかりと聞いていきます。違うご意見であっても、まず聞く姿勢を持ち、さらに良い答えを導いていきたいと考えています。</p>